

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念を作った終わりではなく、定期的な協議、必要に応じた見直しや変更を運営推進委員会や職員間で協議してゆくことも必要と考えている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		一つ一つのケア場面で、理念に基づいた行動を確認し合ってゆきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		当ホームを取り巻くすべての方々に対して、理念の浸透をあらゆる機会を捉えて啓発して行きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		毎年課題に上がっていることであり長い間の課題である。しかしながら少しずつ進展もみられ地域の保育園のお遊戯会への参加等を行うなど、こちらから出向いて行くことに関しては受け入れてもらえるようなので今後も努力して行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		大巻地区福祉教育推進地区支援事業の運営委員に参画している。今後の子供達とのふれあい交流拠点として協力を求められているが、現在はまだ実施されていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者が市主催の認知症関連の研修会に講師の依頼を受け、参加している。今後も地域や行政の要請等には協力したい。(当市は認知症ケアモデル2カ年事業)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員全体で一年の振り返りの意味も含め話し合った。また評価の実施前にはその意義と生かし方を職員に周知してきた。評価後はすぐに改善出来る事柄については指摘事項を生かし、時間のかかるものについては地道に努力をしてきた。不十分な所もあるが前向きに取り組んできた。		今後も今までと変わらず評価の意義を理解しより良いホームの運営のために活かして行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム側から利用者様の様子、行事、サービスの実際、職員の状況等について随時報告している。委員の皆さんからはご家族様、利用者様、地域住民それぞれの目線での貴重なご意見を頂きそれらを活かしている。(広報誌の活用法や行事の内容、職員のストレス発散法にいたるまで)その他ホームから介護保険法に関する情報やトピックスを提供している。適正な運営の為の情報交換の場となっている。		今後も運営の細部に至るまで議題を上げて内容の充実を図りたい。自己評価の一部についても提示し、協議したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーの一員である包括支援センター(市の直営)職員と運営推進委員会で意見交換している。また市役所担当部署とは運営上の相談等で連携している。また自己評価、外部評価の結果や広報誌等を配布している。市主催の地域密着型サービス事業所会議へ管理者、計画作成担当者が出席した。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市主催の左記研修会へ参加し、参加しなかった職員へは資料等で伝達している。母体施設(越南苑)の職員が参加した外部研修資料をホームへ提供して自己学習等している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の左記研修会へ参加し、参加しなかった職員へは資料等で伝達している。母体施設(越南苑)の職員が参加した外部研修資料をホームへ提供して自己学習等している。ホーム内では虐待厳禁を貫いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者様、ご家族様同席のもと入居から退去についてまで運営規定、契約書を使いながら説明している。また金銭管理や利用料、退居後のサポート体制等のデリケートな事柄については時間をかけて説明している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの苦情、不満、意見等については毎日のお茶の時間にお聞きしている。またご家族様を通じてのご意見等も頂き解決にむけ速やかに取り組んでいる。		お茶の時間にこだわらず日常的に入居者様が「話しやすい雰囲気作り」に留意したい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月お手紙を出している。また面会時を利用し生活の様子を伝えている。また急な相談や健康面での報告は随時行っている。金銭管理については領収書を添えて出納帳も一緒に同封している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を設定して、ご家族様がホーム職員へ直接言いにくい場合のシステムができています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2金曜日を定例会議日としている。その際に幅広く職員の意見を聞いている。それ以外でも毎朝の申し送り後のミーティングでも自由に意見交換している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望等への職員の勤務調整には限界がある。ただし事前に予定している行事、受診、家族との外出や外泊等の対応可能な事柄については勤務表(前月の20日頃に作成)に配慮はしている。職員の生活を確保することも重要と考えている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年12月、計画作成担当者が病気入院となり交代した。まず利用者様へ十分に説明した。その後ご家族や運営推進委員会でも紹介した。特段に利用者様がそのためにダメージを受けた様子はなかった考える。		
18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	マニュアルは整備され、職員への周知は図られている。本来ヒヤリ・ハット事例を通した見直しが必要と考えるが今のところは不十分と考えている。		適宜の見直しと職員への周知が必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている</p>	<p>個々の職員の経験、能力等には差異がある。日々の業務中それぞれの場面毎にアドバイスしている。市内で開催される外部の研修は順番に参加し、全職員が共有するために朝のミーティング・定期会議等で報告したり資料を閲覧できる体制をとっている。併設施設の研修会にも参加している。</p>	<p>各種テーマを設定した研修計画・自己学習計画に基づいた内部研修を実施したい。介護保険法、高齢者虐待防止法、身体拘束廃止、個人情報保護法、感染予防、接遇、高齢者の栄養、救急法等を強化したい。ビデオ学習が効果的であり自己学習も進めたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域でのグループホーム連絡会があり定期的に研修会、情報交換、状況報告等を行っている。また研修会参加時に他のホームの状況等がわかり職員の意識が変わった面がある。</p>	<p>今後もこの会に参加し情報交換と職員のモチベーション維持に役立たせたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスは最終的にはケアの質低下を招くことと考えている。日常的な話し合い・コミュニケーションが継続することが大切と考え、利用者様の満足度と同様に職員の働きがい・満足度に関心を払っている。適正な労務管理と労働条件整備に努めている。法人全体の親睦会行事や各種クラブ活動へ参加できる体制となっている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の経験等に応じての役割(行事の担当や日々の業務内での役割)を設けたり研修会への参加や新人職員のプリセプターを担当してもらう等の個々の力量に応じて役割を担っている。</p>	<p>「やりがいのある職場作り」を今後も職員とよく話し合いながら作りあげて行きたい。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の申し込み時から利用者様及びご家族様の意向等に耳を傾ける努力はしている。しかしながらご家族様の意向が優先される場合もある。ホームとしてはその様な場合のご利用者様の気持ちの汲み取り等に努力している。またあわてないでゆっくりと時間をかけての関係づくりにも留意している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約前の訪問・面接時に傾聴している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様、担当ケアマネジャー等から直近情報を把握している。		ご本人様の状態や取り巻く環境、生活状況、医療に関すること等をより広く情報収集することがよりよい「支援」へとつながって行くものと思う。特に医療情報の把握が重要と考える。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には少なくとも一度はホームを訪問して頂きご自身の目でホームを確認して頂いている。また説明も重ねて行っている。利用開始時は「お試し期間」をご本人の意向等に合わせてもうけている。また利用開始直後は可能な限りご本人様のペースで過していただけるよう配慮している。食事量や排泄、バイタル等には注意を払っている。初期の段階では特に綿密にご家族へ状況報告もし、家族の不安解消に努めている。ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者様ひとりひとりの持っている能力を引き出すように努めている。またそれらをご本人の楽しみや生きがいと合わせて行えるよう支援していけるよう努めている。利用者様・職員ともども同じ屋根の下で生活する者同士と考えている。料理や掃除、季節の行事では新たな発見がある。		今後も入居者様の能力の引っ張り出しや生活参加、生活を通じてのりハビリテーションに力を入れたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族間(実子、義理の兄弟等々)で考え方等に違いがあることもある。できるだけ「こんなことが出来ました」「こんな事を喜んでいました」等々のポジティブな事を伝えている。またご利用者様の好みの衣類の買い物や外出、外泊の支援等協力いただける範囲でお願いしている。ご本人とご家族の絆は職員とのそれには及ばない。預けっぱなしにしなで欲しい旨を伝えている。		今後も家族でなければ出来ない部分とホームでもやれる部分をわきまえてご家族様の負担にならない範囲でお互い協力して運営して行きたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	同上		同上。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的ではないが買い物時やドライブ時に自宅訪問や地元集落訪問を実施している。またご家族の方が外泊時等に親戚回りやご近所回りをしてくださる方もいる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係が円滑に行くためには職員が潤滑油の役目をしなくてはと考えている。食事時の職員の座る席等に気配りをしている。人数が少ないため利用者様同士の過干渉や認知症からの様々な問題等については速やかに対応するよう努めている。		今後も全員の方に気持ちよく生活して頂けるよう継続して支援する。潤滑油としての職員のスキルアップ必要と考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後に他の施設に面会に行ったり、入院先へ面会に行くなど可能な範囲で無理の無い程度に関係継続に努めている。またご家族様が立ち寄って近況を聞かせてくれたりすることも過去にはあった。退去後も良好な関係が継続されているように思う。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や利用者様に変化等が生じた場合はそれぞれの能力等にに応じて利用者様を交え話し合いをしている。本人の意に沿わない場合は十分な説明を心掛けている。意思の表出が困難な方については会議や申し送り時を利用し検討している。		本人・家族の思いはいつも同じではなく変化してゆく者と考える。言葉にならない思い・願いを継続して把握してゆきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の訪問・面接の際に、把握に努めているがそれはほんの一部と考えサービス開始後でも継続的にご利用者・ご家族様から拝聴して、ご本人の今までの情報をふくらませている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は毎日の申し送り時や定例の会議時等に情報交換を行い、ご本人の生活パターンや心身の状態、個々の有する力、こだわり、医療面等について把握している。またケース記録や自由ノート等も活用している。		今後も継続して変化する状況の把握には力を入れて行きたい。正しい状況把握が良いケアへ繋がる。ご本人様からの訴えにも十分に耳を傾けて行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様の状態等を把握した上でご本人の意向、ご家族の意向、職員間の情報等を交え介護計画を作成している。作成に当たってはご本人の「したいことややりたいこと」を最優先し前向きに生活出来るよう計画を作成している。内容については今以上の充実が必要である。		今後も情報交換(本人、家族、職員間)を蜜にし計画作成に努める。内容の充実を図ることにゴールはないと考え、地道な研修努力が必要。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者様は常に変化する中で、介護計画の随時の見直しは行うようにしている。その場合は職員間でよく話し合い、ご本人、ご家族に説明している。		より迅速な話し合いと見直しに務める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、介護計画に基づく実践を記録している。内容についてはまだまだ充実させて行く必要がある。気づきについては毎朝のみーテングで意見交換している。		記録の充実を図る。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診に家族が対応できないことが多く、通院の付き添いを行っている。現在は通所サービス、ショートステイ事業は行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて利用者様が住んでいた地区の民生委員の方の訪問や消防署の訪問は受けた。ボランティアを毎回の広報誌等で募集しているが応募がない状況である。地域の保育所へお願いをしてお遊戯会を見物させて頂いた。こちらから出向いて行く方向で取り組み始めた。		入居者様が子供が好きな方が多いので今後も保育園との交流を進めてゆきたい。その他については今後の課題ではあるがすこしづつやってゆきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	過去にも利用者様の意向でケアマネジャーや他の事業所と協力している。		継続する。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター(市直営)職員が運営推進会議に参加し、情報交換している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療支援体制の説明を行い主治医や適切な受診に向けて説明を行い了解を得ている。かかりつけ医が併設の五日町病院であるため関係は良好で24時間のサポートを受けている。		今後も継続して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の五日町病院に精神科があり、認知症に関する支援を受けている。		同上
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の五日町病院と医療連携体制の下、日常の健康管理を支援している。また随時の情報交換や定期(毎月第4火曜日)の連絡会議を通じて行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主な入院先として大和病院、六日町病院、斎藤記念病院があるが情報連携はされているが、当方から早期退院への支援とはゆかず、現実には医療機関の判断に委ねている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「当ホームでの介護の限界」について説明し、終末期ケアは事業所の力を超えていると考え実施していない。ただし併設の老人保健施設及び病院にて受け入れは可能であることを伝えている。「希望があれば当法人が責任を持ってケアを致します。」との旨は伝えている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	同上。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所等へ移られる場合はアセスメント、ケアプラン、フェイスシート等の必要な情報提供は行っている。事前の情報交換、異動先の事業所の職員の面会にも協力している。利用者様のダメージ防止への取り組みについては当ホームだけでは限界を感じている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様の尊厳維持の観点で、細心の注意を図っている。親しさの中でもコミュニケーション(言葉・態度等)にはそれらを意識した対応ができ、自然に身に付いている。個人情報の管理については鍵付き書籍棚等を使用し、関係資料の持ち出しは厳禁している。		介護行為はコミュニケーション能力を基本とし、その上に知識・技術であり総合的な人間力で左右されるものと考え、職員皆で培ってゆきたい。個人情報の管理には問題ないとする。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	個々人に合わせた言葉や表現方法等を心がけている。個々の希望はお部屋を訪問した際や個別の対応時(入浴時等)にもお聞きしている。午前のお茶の時間にも希望や要望はお聞きしている。職員は「いつでもどうぞ」という意識でいる。時には迷っている場合は選択肢を示し、提案することもある。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や個別の役割、散歩、体操等々可能な限りその方に合った一日が送れるように配慮しているが、少なからず集団生活でもあるために限界や集団やホームの決まり(ルール)等が優先してしまう場合もあることは否めない。		今後も個が優先される生活環境作りも一層目指して行きたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者様個々の能力に応じてご本人に任せている方や職員から助言やアドバイス等のみの方、職員の方で選んで差し上げる方まで様々です。あまり干渉しないように努めています。その方らしさを大切にしています。理・美容院はご本人の希望により決めている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付けから後片付けまで一緒に、また利用者様のひとりひとりのもつ能力を引き出しながら行えるよう努めている。個々に役割等もありそれを張り合いにしている方もいる。		食事の雰囲気作りに一層努力してゆきたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒も煙草も希望者がいない状況です。個別のおやつやコーヒー、飲み物等は安全が確保できる範囲である程度自由にして頂いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限りおむつやパット、ポータブルトイレも使用しない方向で対応していますが個々の能力や意識の問題等もあり必要な方は使っている(失禁が心配で)。本人の心配の解消も必要と考えます。一方、職員による誘導や声かけも必要に応じて対応しています。		今後もトイレででの排泄を前提として個々に合った対応や物品も使用しながら対応したいと思います。デリケートな部分なので慎重に対応したいと思います。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は順番や個々の入浴の時間帯、誘い方、生活リズムやパターン等々に配慮しつつ週6回入浴日を設けています。ほとんどの方が毎日入浴され喜ばれている事の一つです。その他の業務もあり困難な場合もありますが利用者様の生活の楽しみとして努力しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	まずは夜間の睡眠をしっかりとれることを第一に考えています。日中の活動と休息のバランスが保てるように休憩や午睡にも配慮しています。個別に特性はありますが夜間の睡眠についてはほぼ良好です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に生活の中で役割が自然に持たれています。きっかけは職員の勧めですが自然な形で継続され、ご本人の張り合いになっています。「何かない?」と申し出られたり、他の方が行っている事を一緒にやっている姿も見られます。		生きてゆく中で「必要とされること」や「役割があること」の大切さを職員がしっかりと認識し入居者様の力を自然な形で引き出してゆけるよう対応して行きたい。「出番づくり、場面づくり」を意識してゆきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで生活の楽しみや張り、緊張感が生まれ自分でお金の出し入れをすることで社会性が継続されるという観点からホームとしては基本的には利用者様にお金の管理をお願いしている。さまざまな事情で御家族様からお願いされお預かりしている方もいます。9名中6名の方がお金を所持しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の能力に応じてご自分で散歩に行かれる方やホームの日課を通じて(ゴミ捨てや買い物)外出の機会を設けている方、職員と一緒に散歩やドライブに行かれる方等々毎日とは行かないが天候や業務との兼ね合いも見ながら外出の機会を作っている。冬場を除けば外出の機会が多いと思う。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様の方から希望があれば可能な限り対応しています。馴染みのお店への買い物や自宅訪問、ご近所訪問等を行っている。自宅訪問は希望がなくても行く事もありました。場合によってはご家族の協力を得ています。また事前に相談するケースもあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人で電話をできる方はご自分でして頂いています。電話番号のみの援助や要件をうかがって職員が伝える方もいます。電話はリビングと事務室にあり希望により使い分けています。職員は席をはずすように心がけています。手紙を書く方はいません。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族等が気軽にお越し頂けるように心掛けています。訪問時はほとんどの方がそれぞれの居室にて過ごされますがお茶の時間等に面会の方はリビングで一緒にお茶を飲まれたり、他の利用者様とお話をされる方もいます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為及び身体拘束をしない旨の宣言文をホーム内に掲示している。スタッフは定例の会議等で確認し合っている。実際そのような行為はない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様の行動の傾向等をある程度把握し止めたり、声をかけたりすることを最小限にするように心掛け外へ行ってしまう方も「出掛けた後どのような行動をするのか、どっちの方向へ行くのか」等々を掴むことで事故防止等に役立っている。ただし事故防止やセキュリティの観点から戸を開けると音の出るものを取り付けている。また午後8時から翌朝7時30分までは玄関は施錠している。		認知症の方への対応に苦慮するケースもあるが今後も鍵をかけない努力をして行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	まずは利用者様の行動の傾向等を把握しそのうえで職員が連携して見守りや個々の状況把握に努めている。夜間は1時間おきの巡回で安全確認を行っている。起きられてしまう方には随時必要な対応をしている。また個別に対応が必要な方には対応している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活感と危険物は表裏一体のものと感じている。生活に潤いが無くならないようにしている。職員は危険事項や物品を申し送りや会議で話し合い共有できるようにしている。またヒヤリハットも記録している。全体的には共有の場所に物が少ないとは感じている。		生活感と事故防止のバランスに配慮し工夫をして行きたいと思います。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを整備している。転倒や窒息、誤薬等については毎月の会議の最後に訓練や確認を行っている。ひとりひとりの心身の状況は常に変化しているために、その時々々の状況を職員皆で把握・共有して対応している。緊急時に対する職員の不安を取り除くことは無理であって知識の習得にゴールはないと考え、努力したい。		緊急時に対する職員の不安を取り除くことは無理であって知識の習得にゴールはないと考え、努力したい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	同上である。法人内で行う応急手当の講習会にも参加している。また感染症(ノロウイルス等)の対応の研修にも積極的に参加し対応できるよう努力している。		繰り返しの訓練や確認、研修会等への参加を心掛け「いざ」と言う時に備えるとともに不安を解消して行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回避難訓練を実施し、その都度設定を変えて実施している。立地条件から併設施設との協力体制はできている		地域消防団との連携体制も必要と考え整えたいと思っている。運営推進委員会に諮ることことも一考かと思う。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にホームでの生活上のリスクについて説明はしている。概ねご理解を頂き、ご本人様の意思が尊重されたケアにつながっていると考える。変更時や必要時はその都度説明や話し合いを行っています。		今後も十分な説明をし協力してより良い生活ができるよう努力して行きます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は毎日のバイタルチェックや食事量、表情、話し方、体の動き等で普段の状態を把握し共有している。「何か変だ」という感じや「ちょっとした変化や異常」への気づきを大切にしている。日中は複数の職員で話し合いを行い受診等を含めた対応を決めている。気づきには職員の経験等によることも大きい。		入居者様の変化に気づける観察力等を養う必要がある。日頃の情報交換を大切にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理は基本的には職員が個別に管理し説明書も一緒に付けている。薬に変更や一時的に服用される場合は記録をしたり薬袋に注意書きを書き込む等して情報を共有している。配薬時はマニュアルに沿って対応している。服薬後に異常があった場合は以後の受診時等に主治医や医療連携先に情報を提供している。		薬による影響が大きく、個人差もあるため今後も取り扱いには注意していく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ自然排便や食事や運動、水分摂取に力を入れているが薬の副作用や身体機能の低下等の理由で薬での管理が必要な利用者様もいます。個別には傾向を把握し薬の使用も最小限にするよう心がけています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを支援し、必要に応じて見守りや介助を行っています。今ではほぼ習慣となっている。必要に応じて隣の歯科受診体制がある。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日記録している。水分量にも職員が目配り、気配りをして情報を共有している。年2回栄養士による食事内容のチェックを行ってもらうとともに勉強会を行い食事のバランスやカロリー摂取量、調理の工夫とうについてアドバイスを頂いている。		勉強会の積み重ねにより一層食事面への配慮が出来るように努力します。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の対応や取り決めについては同一法人の感染対策委員会が作成したマニュアルに沿って行っている。ホームとしては年間を通じて手洗い、うがいに力を入れるとともに職員による持ち込みの予防に気を付けているほか地域の感染症の流行の情報にも気を配っている。また感染症に関する研修会(実技含む)にも参加している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等はホームのマニュアルに沿って日々衛生管理を行っています。食材は毎日買い物に行き新鮮なものを使用しています。手作りを心掛け冷凍食品や出来合いのものはほとんど使用しません。職員の努力が見える部分です。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	春から夏にかけては花を飾ったりして威圧感等はないと感じているが立地条件等から施設と言う感じは否めない。	親しまれるホーム作りのため季節毎に一層工夫や努力が必要である。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な生活音や季節ごとの光や景色、生活の中のおいと感じられると思う。リビングの窓からは近くの家や冬はスキー場が見えたりする。ご自分の席でゆったりと過ごす姿が年間を通じて見られる。職員も共有空間での声の大きさ等には注意をしている。トイレは1日に2度掃除を行い清潔に気持ち良く使ってもらえるようにしている。	共有空間は今後も入居者様にとって気持ち良く利用して頂けるよう配慮して行きたいと思います。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特にそのような場所や空間はないが利用者様が自然な形で椅子やソファ等を利用して下さっている。特に不自由さ等を感じられない居室等も上手に使われているようです。また事務室を訪問頂き職員と話をされる方もいます。	今後もホーム内を自然な形で上手に生かして行きたいと思います

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの物品や生活用具等は特に規制してはいないしむしろ勤めているが実際はホームで用意したものを使われている。個々に個性も出されている方もいるが全体的には画一的な感じがある。ただし利用者様に不自由な感じや居心地の悪さ等は感じられない。		今後も個々の希望や要望に対応する姿勢は持ち続ける。持ち込みについても勤めてゆく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏場はリビングや廊下等の窓を開けては自然の風を入れている時間が多い。冬場は1日2回時間を決めて換気を行っている。室温や湿度も職員が注意を払い適温になるよう気配りをしている。気になる匂いはないと感じている		今後も継続して行きます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、必要と思われるところには手すりも付いている。個別に身体能力に差があるがシルバーカーの利用や職員による手引き等での対応もある。手すりも利用者様の状態を考慮し最近設置したものもある。		すべての入居者様に対応して行くことは限界があるが出来るだけ自立した生活が送れるよう支援して行きます。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の戸惑いや失敗、出来ないことの原因を見つけ出しどう工夫したり、声をかけたりすれば出来るのか等々には職員はそういった視点で取り組んでいる。管理者や主任からアドバイスすることもある。		今後も職員の関わり方や工夫で入居者様の状態や状況が変わってしまうことや工夫や視点の置き方を変えることの大切さを職員同士確認しあって行きたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や花壇には花が植えられている。洗濯物も外に干す場所もある。ベランダは椅子とテーブルがあり日向ぼっこや入居者様同士の共有部分となっている。		ホームの外回り等も有効に活用して行きたい。

サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「健康で元気に長生きをしてほしい。」と願っています。そのために生活参加、生活リハビリに力を入れています。介護するのではなく「この人が介護を（人の手を借りなくても）受けなくても生活できるような援助」を心掛けています。職員も一生懸命取り組みその事が入居者様の状態維持につながっている事を感じて頂きたいです。